

わんぱく学園ニュース

平成17年 7月号 No115

先日19日、環境省が2003年から始めた「二酸化炭素削減/ライトダウンキャンペーン」の一環「ご縁火キャンドルナイトまつえ」に出掛けました。午後7時半。馬溜・米蔵跡や城内の石段に置かれた2000本のろうそくの一本一本に火がともされました。係りの方から「願いごとを唱えながら…どうぞ!」と声をかけていただいた私は、わんぱく学園の子どもらの健康など一心に願い、2本のろうそくに火をつけました。

日が落ちるに従い、馬溜跡にろうそくを並べて描かれた新松江市の地図が暗闇に浮かび上がり、揺れる炎の柔らかなそして幻想的な明かりの中、時間がゆったりと流れていくのを感じました。その静けさの中で、なんじゃもんじゃの木の下で聴いたあの尺八の調べに、家族皆で過ごした幼き頃をふと思い出していました。戦後生まれの私は、少々ロマンチックな気分には浸っていました。が、戦前・戦時中に育たれた方には、不自由さや危なさを感じながらの暮らしであったことを、ふと思い起こされたのでは…と思ったりしました。

「ろうそくの明かりは見える範囲が狭く、お互いに家族が心や身体を寄せ合って暮らしていた…」など、その暮らしを知らない私によく語ってくれた父母・姉兄の言葉を思い出してもいました。

“地球温暖化防止として自分たちに出来ることは何か?”と我が家で始めた一週間に一度の“ろうそくの日”。その体験で気づき家族で話し合ったことは、

- ・快適と言われる電化生活に慣れた今の私たちには出来るだろうか?。
- ・ゆっくりゆったりとした動きとなり、せわしさが遠のいていく感じがする。
- ・かすかな明かりと回りの吸い込まれそうな暗闇は、人間としての本来の機能といわれる5感がとぎすまされる。
- ・スローライフであったと思われるが、そこには相当な不自由さがあったのか?。


今でいう不便な暮らしの中から、共同社会の助け合いとして家族や隣近所で語り合い考え合うといったコミュニケーションが生まれたのでは…といったことでした。


このように実体験から不便さを体感したり考えたり時には楽しみながら、環境問題にもぼちぼちおちらと取り組みつつあります。


あの炎の柔らかな明かり・色が楽しめる一時の我が家の“ろうそくの日”。


何となくのんびりゆったりした時間を味わえるのは気のせいでしょうか?。スローな夜を……


「ろうそくの日」語り、糸編(T6・8生我が家大先輩)

 地球温暖化防止は、とても大切なことだね。でもね、情報で教えられていることであって正直、実感ないねえ〜。昔を知らない人が言うのであって、その当時は生活の質も低く、生きることが精一杯だったんだよ。新聞やラジオなど情報源もなく自分らの世界が非常に小さかったんだよ。

 温暖化のためかわらんけど、冬がぬくなって楽になったなあ〜。T14年豪雪で、屋根までつかえた雪を掘って出入りしたもの。

 S14年大干ばつがあって、一町余りの田圃に、“てみ”に一杯分しか米がとれなかった。その当時の桜内農林大臣がため池しかない久多美に作業着で見舞いに来らいたよ。復興に一年かかったよ。

 小学1年生の時、学校で人物画を描いたら、松陽新聞に掲載してくれた思い出があるんだよ。数年前まで大切にしていたけどなあ。

 子どもの頃はね、“木の風呂桶”だったよ。両隣(3件)が、順番にお風呂炊いて入りやっこしてた。物がなく薪もとても大切だったよ。そのうち“五右衛門風呂になったけどね。『今夜は、ごっつお(御馳走)さっちゃんしいたげで(しなさったそうで)よばれにききました(御馳走に来ました)』って、お風呂入りに行き来したもんだよ。 [土江 記]

嬉しいお知らせ!

「しまね子ども環境探偵団に認定」

だめもとで応募した山陰中央新報社の環境キャンペーンのひとつ「しまね子ども環境探偵団」。

5月中旬、何気なく新聞を読んでいたところ、しまね子ども環境バンクの記事が目にとまりました。県内の小中学生を中心に構成する団体もしくは、これから活動を行う団体を対象に、応募団体の中から選考で「しまね子ども環境探偵団」を認定し、それぞれ10万円の活動費を助成していただくものでした。

さっそく応募用紙を社より送っていただき、四苦八苦しながら要旨をまとめ応募させていただきました。助成団体の対象は、10団体のところ応募したのは14団体だったようです。小会わんぱく学園の活動では認定は難しいものだろうと思っていたところ、7月6日社より電話をいただき、探偵団に認定したとの思いがけない朗報を得ました。7月23日午後2時松江本社にて行われた認定式に、東小5年梶谷拓也さんと旭丘中3年梶谷結美さんが皆さんの代表として出席してくれました。山根常正社長様より認定書と助成金をいただき、「H14年より設立しているが、何事も地域を良くする活動は継続していくことが大切。将来を見据えたものになるよう頑張ってください」とのお言葉をいただきました。また審査委員長の平塚貴彦根大名誉教授様より「地域の大切な資源を生かし保存していくことが大切。小、中、地域との交流を。またハンディをもつ団体が環境問題を取り上げ活動していることに嬉しく思った。それぞれが認定を出発点に関心を深めて」などの評価視点をお話しになりました。

7月31日付の山陰中央新報にその認定10団体が大きく紹介されましたね。

当学園の遅々たる歩みにもかかわらず認定していただいたことに、改めて山陰中央新報社の障害者(児)に対して、より深く理解ある心に触れたいと思いがたたく思い、微力ながらこの平田の美しい自然を守り続けたいと意を強くしました。

そこで来る9月23日(祝日)、まず親子での環境問題についての楽しい学習会を予定しています。詳細は後日お知らせしますので、是非参加をお願いします。

今一度、環境問題の大切さを知り、お互いに知恵を出し合いながら、わんぱく学園のあややり方「ゆっくりに楽しみながらすすめていきたい」と思います。

わんぱく学園からも平田市民一人ひとりへ、その大切さを少しでも発信できたいですね!

是もとの乱れは心の乱れ

ゴミを落とすなかれ!!

ハゼ釣り・宍道湖周辺ピッカピカ!

台風の為予定より一週間日延べした17日、私たち24名は、市立文化館前バスターミナルから生活バス(廃食用油バス一家庭廃食用油を回収し、収集車や生活バス等の燃料として使用)に乗り、宍道湖へハゼ釣りに出掛けました。この日は山陰中央新報社の方の取材もあり、釣りをする前にまず宍道湖を背景に記念写真撮影。それぞれがいつものように、お楽しみ願いでパチリ!

当日はちょっぴり波があり湖遊艇近くでいよいよハゼ釣り大会開始。

「ハゼは、底へんに おーらしいよ」

「浮きじゃなく、重りで決めた方が…」

釣り名人の飯塚真澄顧問のあの笑顔や穏やかな声がなく、何となく皆の心は話らなくとも淋しそう…。

しかし、糸を張ってあたりを今か今かと待っている子らの表情は真剣そのもの。そのうち手ごたえがあり、たくり寄せてみれば、かわいいうハゼばかり…。そんな中突然ひとときわ大きな声。振り向けばあのパワ

探検ごっこ〜荒神谷遺跡公園

11月24日のわんぱく学園は荒神谷に行きました。

参加者は飯塚誠君、土江広君、福田先生、土江先生、そして私傳野と二人の子ども、泰大と泰海の7人でした。当日ほどでもない天気、気持ちのいい日でした。荒神谷公園は手入れがよく行き届いているし、自動車も入って来ないので、小さい子ども連れの家族が目立ちます。

かやぶきの古代の家に入ったり、遊具で遊んだりして時間をすごしました。途中から土江先生の発表でご挨拶もするにしました。荒神谷は、朝掃除をされるので余りごみは落ちていませんが、それでもよく探すと所々に、空き缶やペットボトル、キャンディーの包装紙などが落ちていました。せっかくなので、袋を持ってごみ拾いしながらいくと一石二鳥です。いいアイデアだと思えました。

飯塚誠君は、荒神谷に来るのは初めてというこで、とても楽しんでいました。

天気のいい季節は、むりに家の中で絵を描くこともないなと思いましたが。太陽の光を浴び、いい空気を吸い、のんびりとして、心の中のキャンパスに思い思いの色を塗るのがいいかなと思えました。福田先生、土江先生お世話になりました。(わんぱく学園副校長 傳野)

わんぱく学園環境探偵団の会話より

「あれっ!こーは(虫の鳴き声)大人が捨てたんじゃないかな?」

大人って正しいこと知らん人もいるんだね」

「せっかくなススキや山茶花が僕たちにはいい気持ちでプレゼントしてくれようーに!」 「悲しんでるね!! 草や花や木が…」

子どもらこのつぶやきを耳にした私は、ノーベル平和賞受賞が決まった、あの木を植える運動を続けてきたケニアの女性ワンガリ、マダイさんの言葉がふと脳裏をよぎりました。

「環境は平和を守るための重要な要素。木を植える時、平和と希望の種も植えるのです。私たちが木を植える時には同時に子どもたちの未来も守っている」と。

私たちの心を癒してくれた身近にあるあの大らかな宍道湖や出雲平野一面が見渡せる旅伏山、八頭のおろちのお話しが伝わり今では野草野花が咲きそろそろ斐伊川土手として愛宕山公園などの平田の美しい自然を守り、いつまでも引き継いでいこうという思いから、当学園では戸外遊びを通して大自然をまるごと愛しながら、環境問題の大切さも気付き、ゆっくりと進めています。

どのようなことをしたらよいか? まず身近なところ、自分ができることから、そしてそれが当たり前にできるよくなれば……と心ひそかに願っています。

「溢れる原教諭の得意満々の笑みで「ホーラ!!」。10数センチ余りの大物?(この日は一番の大物)。「よかったね」と共に喜び合いながら、子どもやお父さんお母さんたちは、自分のペースを崩さずチャレングジしていました。が誰かさんは「さあ〜で今度こそ!」と勢い込んでいたその矢先、「あー!!これは手ごわいぞ〜」と懸命に糸をたぐり寄せながら「ホーラ、見てでさ覧!」とあの得意の自慢が。皆は息をとめ、じっ〜と私の糸の先をみれば……何と驚くなかれ、魚の形そっくりなペドロのごみが。「なあ〜んだ、ごみじゃ〜ん!!」と大笑い。「いいわよ、いいわよ、ごみ釣ってこの宍道湖きれいにしちゃうから…」と心の中で叫んだのであります。

さて、ハゼ釣り大会の後は宍道湖沿いに歩きながら、園駅まで空き缶、ごみ拾いをしました。いっぱいになった袋をそれぞれが家庭に持ち帰り、市環境保全課が全戸に配布している収集表を見ながら親子で分別し、指定日に出しました。